

# 2019年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2018年10月30日

NECキャピタルソリューション株式会社

# Orchestrating a brighter world

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。  
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ  
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、  
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、  
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、  
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。

# 目次

## 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

- 1) 連結決算ハイライト
- 2) 事業環境
- 3) 業績概要（連結）
- 4) 事業別収益（連結）
- 5) 事業別契約実行高の状況（連結）
- 6) 賃貸・割賦事業の営業状況（連結）
- 7) ファイナンス事業の営業状況（連結）
- 8) リサ事業の営業状況（営業利益）
- 9) 営業資産残高の状況（連結）
- 10) 資金調達状況（連結）
- 11) 与信関連費用（連結）

## 2. 2019年3月期 計画

- 1) 連結業績予想

## 3. 中期計画2017進捗状況

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 1) 連結決算ハイライト

### 【事業環境】

- ・リース取扱高は前年同期比3.9%増加
- ・資金調達環境は引き続き良好な状況を維持
- ・倒産状況については、負債総額は大型倒産により増加となるものの、総じて安定推移

### 【営業実績】

- ・賃貸・割賦事業における契約実行高・成約高共に前年同期比増加
- ・ファイナンス事業についても前年同期比増加

#### <賃貸・割賦事業>

契約実行高： **17.7%増**    成約高： **4.4%増**

#### <ファイナンス事業>

契約実行高： **14.0%増**    成約高： **15.1%増**

### 【経営成績】

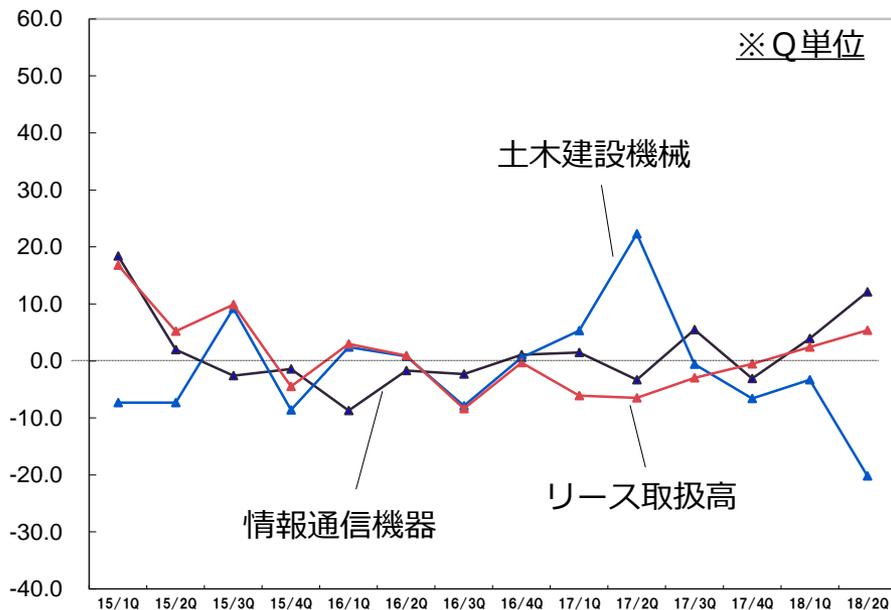
- ・前年同期にリサのファンドビジネス、及び満了解約等で大型案件計上があったことから、売上、利益共に前年同期比減少となるが、ほぼ計画通りの進捗

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 2) 事業環境

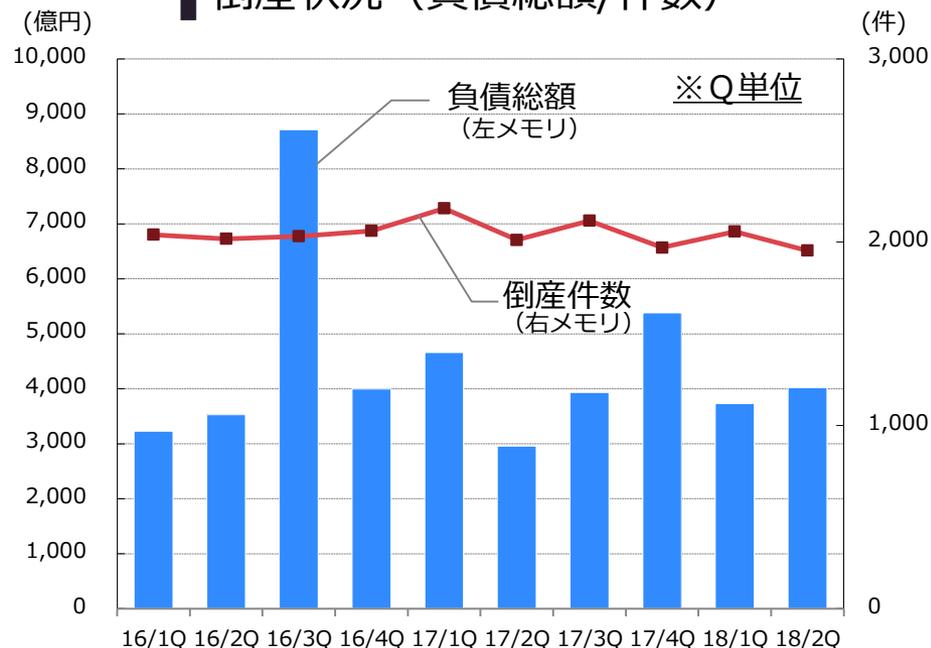
- ・リース取扱高：業界全体のリース取扱高については前年同期比3.9%の増加  
当社の主力である情報通信機器は前年同期比8.1%の増加
- ・倒産状況：18年9月期における倒産件数については前年同期比微減  
負債総額は大型倒産があったものの、総じて安定推移

リース取扱高動向（四半期単位前年同期比推移）



(社団法人リース事業協会：リース統計より)

倒産状況（負債総額/件数）



(帝国データバンクHP：倒産集計より)

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 3) 業績概要 (連結)

- ・売上高 : 前年同期にリサのファンドビジネス、及び満了解約等で大型案件の計上があったことから前年同期比9.1%の減少
- ・経常利益 : 前年同期のリサ事業における大型案件計上に加え、為替差損等の発生から前年同期比62.2%の減少

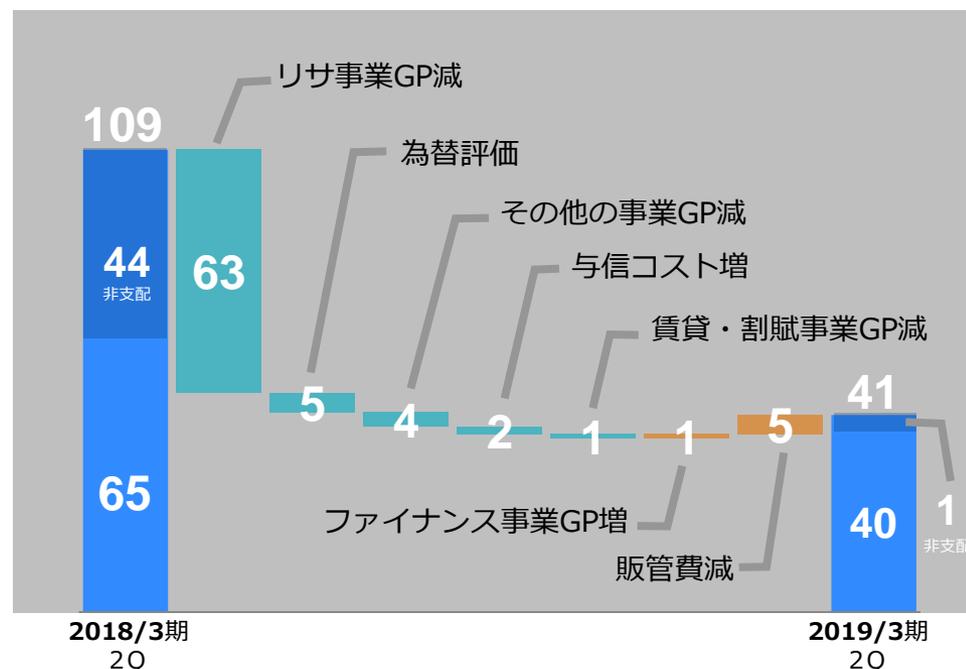
### 業績数値

(単位: 億円)

	2018/3期	2019/3期	前年同期比
	2Q	2Q	
売上高	1,111	1,010	▲9.1%
営業利益	110	47	▲57.1%
経常利益	109	41	▲62.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	47	27	▲43.2%
1株当たり四半期純利益	219円95銭	125円00銭	-
営業資産残高	7,827	8,084	+3.3%
純資産	1,088	1,024	▲5.8%
自己資本	834	866	+3.9%
自己資本比率 (%)	9.7	9.9	+0.3
1株当たり中間配当金 (円)	22	25	+3.0

### 経常利益 前年同期比主要増減要因

(単位: 億円)



# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 4) 事業別収益（連結）

### 事業別収益

（単位：億円）

		2018/3期	2019/3期	
		2Q	2Q	前年同期比
貸貸・ 割賦事業	売上高	814	833	+2.3%
	売上総利益	56	55	▲1.0%
	営業利益	28	25	▲10.2%
ファイナンス 事業	売上高	29	30	+6.0%
	売上総利益	23	24	+4.9%
	営業利益	13	20	+56.6%
リサ 事業	売上高	139	83	▲40.5%
	売上総利益	98	35	▲64.1%
	営業利益	77	15	▲80.9%
その他の 事業	売上高	129	64	▲50.1%
	売上総利益	11	7	▲33.3%
	営業利益	1	▲4	▲588.6%
計	売上高	1,111	1,010	▲9.1%
	売上総利益	187	121	▲35.2%
	営業利益	110	47	▲57.1%

※短信セグメント情報のうち、「調整額」を除いて表示

#### <<貸貸・割賦事業>>

- ・売上高は、営業資産残高の増加により前年同期比2.3%増
- ・営業利益は、前年同期に貸倒引当金戻入額の計上があったことから前年同期比10.2%減

#### <<ファイナンス事業>>

- ・売上高、売上総利益は前年同期並みであるものの、営業利益は貸倒費用の改善により、前年同期比56.6%増

#### <<リサ事業>>

- ・前年同期に、ファンドビジネスの大型売却があったことから、売上高、利益共に減少

#### <<その他の事業>>

- ・前年同期に大型の満了解約売上や商品売上があったことに加え、ヘルスケア関連不動産の売却による賃貸料収入の減少から、売上高、利益ともに減少

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 5) 事業別契約実行高の状況 (連結)

### 事業別契約実行高

(単位：億円)

	2018/3期	2019/3期	前年同期比
	2Q	2Q	
貸貸・割賦事業	612	720	+17.7%
貸貸事業	585	670	+14.6%
割賦販売	27	50	+85.1%
ファイナンス事業	2,124	2,421	+14.0%
営業貸付金	1,727	2,033	+17.7%
一括ファクタリング	397	389	▲2.2%
その他の事業	53	27	▲49.5%
計	2,789	3,168	+13.6%

### 事業別成約高

(単位：億円)

	2018/3期	2019/3期	前年同期比
	2Q	2Q	
貸貸・割賦事業	1,023	1,067	+4.4%
貸貸事業	998	1,021	+2.3%
割賦販売	25	46	+87.2%
ファイナンス事業	2,105	2,424	+15.1%
営業貸付金	1,708	2,035	+19.2%
一括ファクタリング	397	389	▲2.2%
その他の事業	56	27	▲51.6%
計	3,184	3,518	+10.5%

#### <<契約実行高>>

- ・ 貸貸・割賦事業については、官公庁・民需共に大型案件を計上、またファイナンス事業も堅調に推移し、全体では前年同期比13.6%増加

#### <<成約高>>

- ・ 貸貸・割賦事業については微増にとどまるものの、ファイナンス事業が堅調に推移したことで、全体では前年同期比10.5%の増加

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 6) 賃貸・割賦事業の営業状況（連結）

### 業種別契約実行高

（単位：億円）

	2018/3期 2Q	2019/3期 2Q	前年同期比
官公庁	314	332	+5.7%
民需	298	388	+30.4%
サービス業	90	94	+4.7%
流通業	92	145	+56.4%
製造業	68	69	+0.9%
その他	47	80	+70.8%
計	612	720	+17.7%

### 業種別成約高

（単位：億円）

	2018/3期 2Q	2019/3期 2Q	前年同期比
官公庁	700	698	▲0.4%
民需	323	370	+14.6%
サービス業	78	81	+3.3%
流通業	110	122	+11.5%
製造業	70	80	+14.3%
その他	64	86	+34.0%
計	1,023	1,067	+4.4%

### （参考）機種別賃貸事業契約実行高

（単位：億円）

	2018/3期 2Q	2019/3期 2Q	前年同期比
情報通信機器	447	482	+7.7%
電子計算機及び関連装置	206	252	+22.6%
ソフトウェア	225	208	▲7.3%
通信機器及び関連装置	17	22	+26.5%
事務用機器	46	72	+56.6%
その他機器	119	166	+40.2%
計	612	720	+17.7%

・ 契約実行高は、民需領域が30.4%と大幅伸長  
また、官公庁においても大型案件の継続獲得により、全体で前年同期比17.7%増

・ 成約高は、官公庁で前年同期に大型案件があったことから微減となったが、民需領域が堅調に推移したことで、全体では前年同期比4.4%の増加

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 7) ファイナンス事業の営業状況（連結）

### 契約形態別契約実行高

(単位：億円)

	2018/3期	2019/3期	前年同期比
	2Q	2Q	
立替・APF・割賦バック	92	113	+23.1%
個別ファクタリング	1,036	1,210	+16.7%
一括ファクタリング	397	389	▲2.2%
企業融資	538	621	+15.6%
その他	61	89	+45.3%
計	2,124	2,421	+14.0%

### 業種別契約実行高

(単位：億円)

	2018/3期	2019/3期	前年同期比
	2Q	2Q	
官公庁	5	4	▲23.4%
民需	1,722	2,029	+17.8%
サービス業	127	204	+61.0%
流通業	144	122	▲15.4%
製造業	1,130	1,282	+13.4%
金融業・保険業	125	230	+84.1%
不動産業	73	89	+22.4%
その他	123	102	▲17.2%
一括ファクタリング	397	389	▲2.2%
計	2,124	2,421	+14.0%

- ・ 契約形態別契約実行高においては、割賦バックや個別ファクタリングが引き続き堅調に推移したこと、また海外の企業融資も増加したことにより、前年同期比14.0%の増加
- ・ 民需における業種別では、金融・保険業で前年同期比大きく増加

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 8) リサ事業の営業状況（営業利益）

（単位：億円）

		2018/3期 2Q	2019/3期 2Q	前年同期比
アセットビジネス	売上高	121	31	▲74.1%
	売上総利益	86	19	▲77.3%
	営業利益	76	10	▲86.9%
不動産	売上高	15	48	+215.3%
	売上総利益	9	12	+33.0%
	営業利益	6	10	+68.5%
アドバイザー	売上高	3	3	+21.0%
	売上総利益	3	3	+19.6%
	営業利益	▲1	0	-
のれん他	売上高	0	0	-
	売上総利益	0	0	-
	営業利益	▲5	▲5	-
連結ベース 計	売上高	139	83	▲40.5%
	売上総利益	98	35	▲64.1%
	営業利益	77	15	▲80.9%

前年同期の大型案件計上により、  
売上高、売上総利益、営業利益は  
それぞれ減収・減益

### <<アセットビジネス>>

- ・前年同期に、大型の投資有価証券の売却があったことから、減収減益

### <<不動産>>

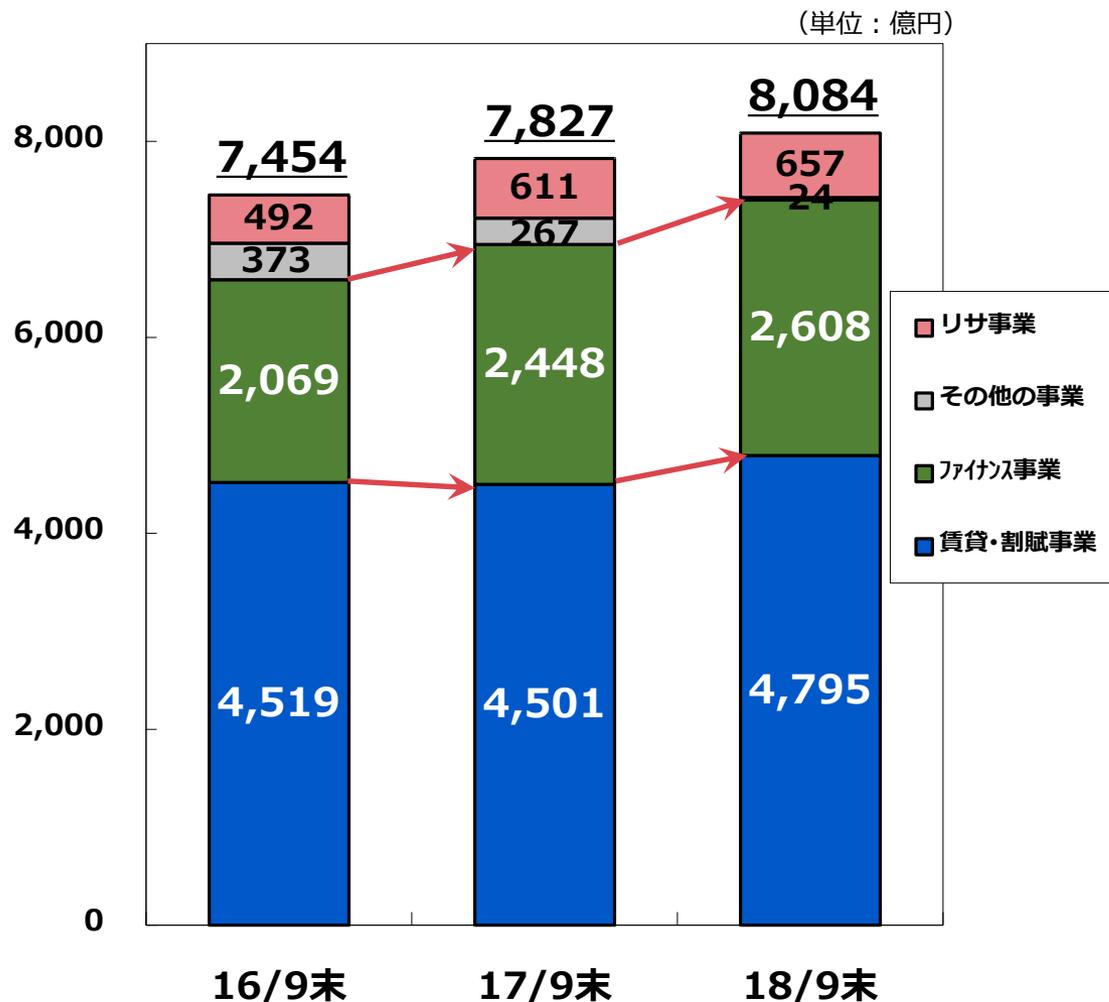
- ・販売用不動産の売却により増収増益

### <<アドバイザー>>

- ・安定的なM & A 関連等の手数料収入により前年同期並みの収益を確保

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 9) 営業資産残高の状況 (連結)



### <<貸貸・割賦事業>>

官公庁の大型案件獲得及び、ICT レンタル等の強化施策が奏功し、官公庁・民需共に伸長  
前年同期比294億円の増加

### <<ファイナンス事業>>

外貨建て融資並びに個別ファクタリングが伸長し、前年同期比160億円の増加

### <<その他の事業>>

前年にヘルスケア関連不動産を売却したことに伴い、前年同期比243億円の減少

### <<リサ事業>>

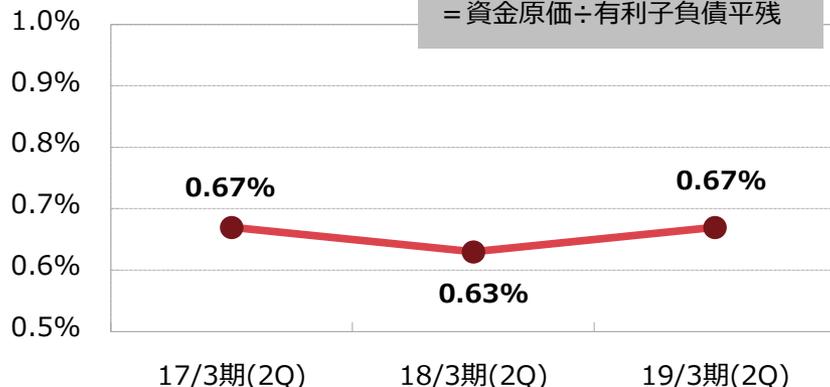
ファンドビジネスの進捗等により前年同期比46億円の増加

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

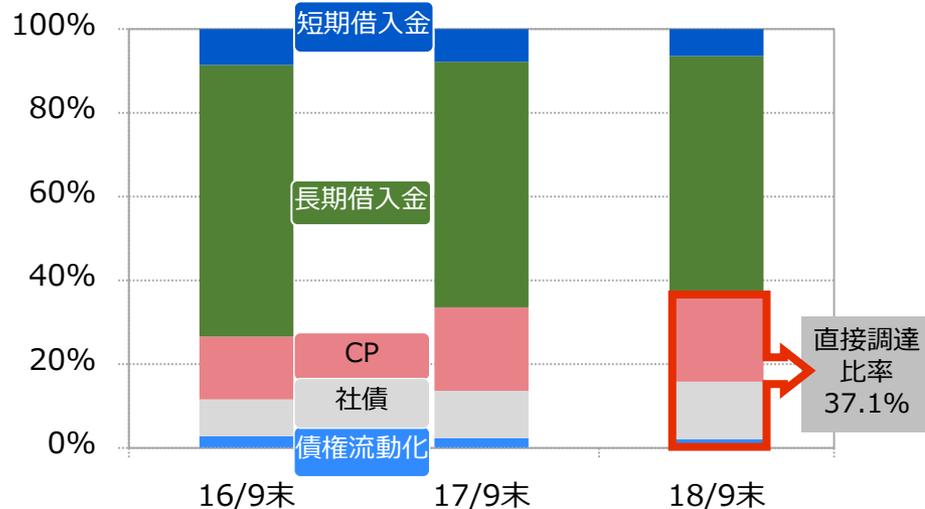
## 10) 資金調達状況 (連結)

### 資金原価率

資金原価率 (%)  
= 資金原価 ÷ 有利子負債平残



### 有利子負債構成比



### 有利子負債残高

(単位: 億円)

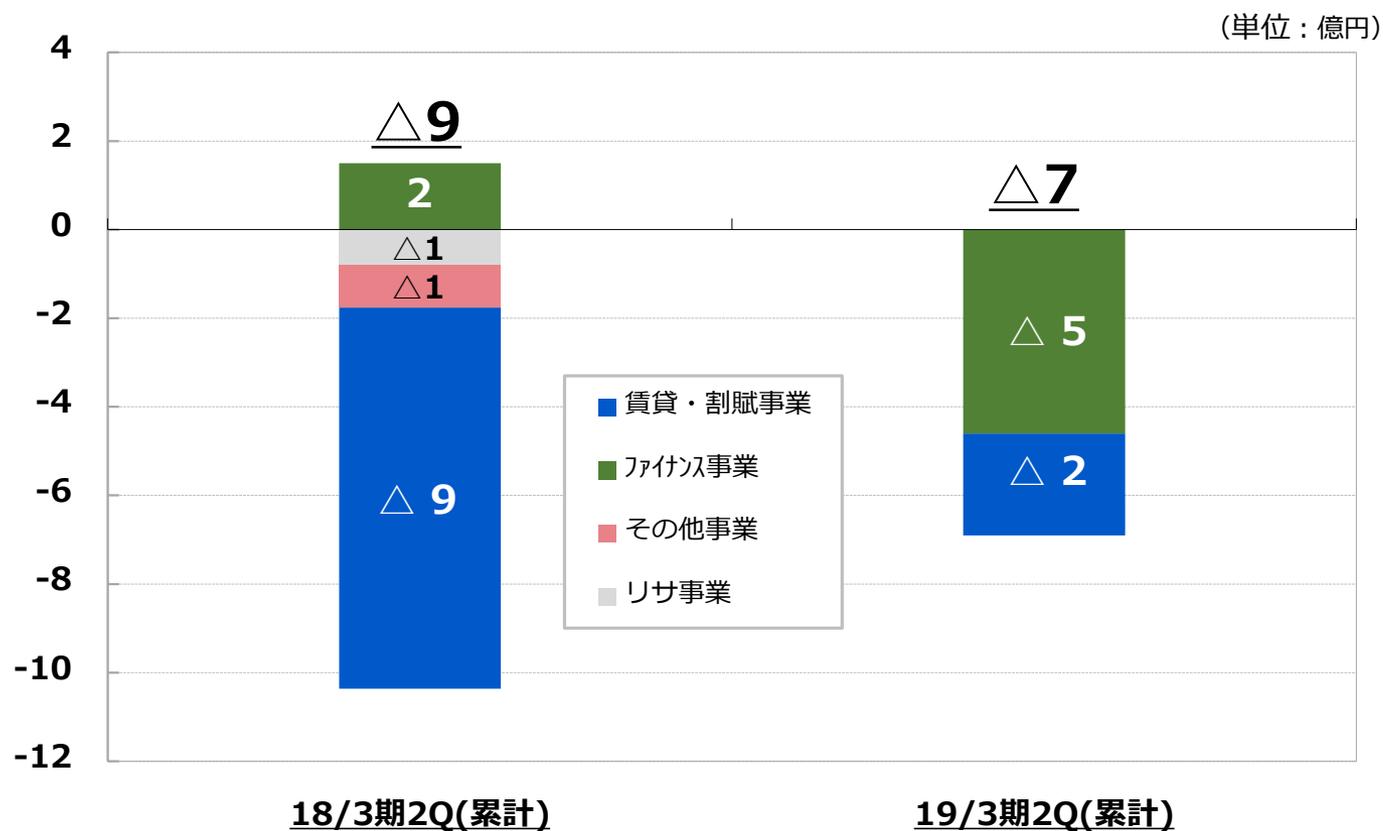
	18/3期		19/3期		増減
	2Q末	構成比	2Q末	構成比	
短期借入金	556	7.8%	472	6.5%	▲84
長期借入金	4,166	58.6%	4,098	56.4%	▲68
CP	1,420	20.0%	1,550	21.3%	+130
社債	800	11.3%	1,000	13.8%	+200
債権流動化	166	2.3%	149	2.1%	▲16
計	7,107	100.0%	7,269	100.0%	+162

- ・ 資金原価率は0.67%と前年同期比0.04ポイント増  
⇒ 外貨調達における市場金利上昇により増加
- ・ 直接調達比率は上昇  
(2017/9末 33.6% → 2018/9末 37.1%)  
⇒ CP及び社債の積上げにより上昇

# 1. 2019年3月期 第2四半期実績報告

## 11) 与信関連費用（連結）

- 与信関連費用は、前年同期比2億円の戻入益減少



## 2. 2019年3月期 計画

## 2. 2019年3月期 計画

### 1) 連結業績予想

- ・ 期初予想通りの進捗を維持

#### 連結業績予想

(単位：億円)

	実績	予想	
	2019/3期 第2四半期	2019/3期 第2四半期 (累計)	2019/3期 通期
売上高	<b>1,010</b>	-	<b>2,000</b>
営業利益	<b>47</b>	-	<b>80</b>
経常利益	<b>41</b>	-	<b>80</b>
親会社株主に帰属する純利益	<b>27</b>	-	<b>40</b>
1株当たり純利益 (円)	<b>125円00銭</b>	-	<b>185円76銭</b>

#### 1株当たり配当金

	第2四半期末	期末	年間
2019/3期 予想	<b>25円00銭</b>	<b>25円00銭</b>	<b>50円00銭</b>
2018/3期 実績	<b>22円00銭</b>	<b>28円00銭</b>	<b>50円00銭</b>

### 3. 中期計画2017 進捗状況

# 3-1. 中期計画2017の概要

「コア領域の完成」と「新事業立ち上げ」で、持続し得る事業基盤を構築

【当社グループビジョン】

お客様と共に、社会価値向上を目指して、グローバルに挑戦するサービス・カンパニー

強みを活かした当社らしい  
“サービス”を確立



グループビジョン実現に向けた  
マイルストーン

コア領域の完成  
+ 新事業立ち上げ

4～6年目  
(2017-2019)

コア領域の拡充  
+ 新事業収益化

7～10年目

非金融含む当社ならではの  
“新事業”を確立



コア領域の基盤再構築  
+ 「仕掛け」を構築

1～3年目

FY2014

FY2023

### ①「コア領域の完成」：強みを活かした当社らしい“サービス”の確立

- NECとの戦略的なパートナーシップの確立と深耕
  - NECとの連携強化による取扱高の増加
  - NEC商材を活用した新たなレンタルサービスの開始
- 独自商流における顧客基盤の拡充
  - 外資系ICTベンダーとの連携強化によるベンダーファイナンスビジネスの拡大
  - 新たな取り組みを開始した小口リースの積み上げ伸長
- 高い利益成長の源泉を確保
  - リサアセットソリューション事業での収益確保
  - リサの次期ファンドによる投資が順調に進展
  - 価値共創ベンチャー2号有限責任事業組合の立ち上げ
  - PFI事業へ代表企業として初参画

### ② 「新事業の立ち上げ」：非金融を含め当社らしく持続可能な“新事業”の確立

- 新事業（エネルギー・農業・ヘルスケア・観光）における新ビジネスモデルの確立
  - 「(株)みらい共創ファーム秋田」における米と畑作（たまねぎ）の複合農業の試行
  - 阿寒アドベンチャーツーリズム、白馬岩岳街並み活性化への出資参画による観光資源活性化を通じた事業創出、街づくり
- ICT/IoT、非ICT商材を対象とするレンタル事業の具体化

### ③ 事業戦略を支える経営基盤の強化

- 業務品質の向上への取り組み推進
- RPA導入による業務効率化推進

本資料に記載されている株主・投資家向け情報は、投資勧誘・保証を目的として作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、ご利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。

本資料に記載されている当社の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。

また、本資料に記載されている経営目標は予想ではなく、将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものではありません。むしろ、経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、当社の事業領域を取り巻く経済情勢及び規制や法令の変更、潜在的な法的責任、当社のサービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力などがありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷などにより、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

当社による将来予測に関する記述は、その日現在のものであることをご承知おきください。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、リスクや不確定要因があるため、将来予測に関して記述されていることが実際には起こらない場合もありえます。これらの記述に全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。



NECキャピタルソリューショングループビジョン

**お客様と共に、社会価値向上を目指して、  
グローバルに挑戦するサービス・カンパニー**